

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年10月1日

## 【評価実施概要】

事業所番号	873200349		
法人名	医療法人社団 正信会		
事業所名	グループホーム れんぎょう		
所在地	笠間市安居3144-521 (電話) 0299-37-8100		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成20年5月20日	評価確定日	平成20年10月1日

## 【情報提供票より】(平成20年4月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成14年6月24日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	19 人	常勤	11人, 非常勤 8人, 常勤換算 4.1人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨平屋	造り
	1階建ての	～ 1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,500 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	-	
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	300 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1,000 円			

### (4) 利用者の概要(平成20年4月1日現在)

利用者人数	25 名	男性	8 名	女性	17 名
要介護1	9 名	要介護2	5 名		
要介護3	7 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82 歳	最低	61 歳	最高	95 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団 正信会	宇野歯科
---------	------------	------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「やさしく、しんせつ、ていねいに」という理念を日々実践している。管理者は、利用者の「人生での最後の舞台」と考え、楽しんで過ごしてもらえよう、利用者の立場に立ったサービスを提供している。職員は、利用者の人権を尊重し、お互いが支え合う関係を形成している。医療法人が設置母体のため、利用者の健康管理や緊急時の対応等は同一法人の病院との間で24時間の医療連携体制を構築している。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 改善課題であった「地域との交流」は、ホーム行事に地域の方々を招待することなどを契機として顔馴染みの関係を築きつつある。今後は、地域の活動などへの参加を考えている。 運営推進会議は、第1回目の開催に向けて準備中である。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価はユニットごとに全職員で行っている。 自己評価や外部評価は、自己を振り返る良い機会と捉え、改善すべき点は改善してサービスの質の向上につなげている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は利用者や家族、地域包括支援センター職員、地域の有識者、民生委員、事業所関係者を委員として1回目を6月に開催することになっている。 会議を積極的に活用し、サービスの質の向上につなげることを期待する。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 意見箱を玄関に設置している。 重要事項説明書に苦情等の申し立て窓口を明示するとともに、ホーム内に掲示し、家族等が運営に関する考えを表出しやすい環境を整備している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 小学生や中学生の体験学習、踊りや太鼓などの楽器演奏等のボランティアを受け入れている。 ホームで開催する夏祭りに地域の方々を招待したり、散歩の折に行き交う人達に挨拶する等、地域との交流に努めている。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「やさしく、しんせつ、ていねいに」をホームの理念とし、ユニットごとに利用者の集う居間に掲示している。 認知症があっても、地域のなかで普通に生活できる家庭的な環境、利用者のペースに合わせた介護をモットーとしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は職員採用時やその後の内部研修、職員会議など折に触れ、職員とともに理念を再確認し実践に結びつけている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小学生や中学生の体験学習、踊りや太鼓などの楽器演奏等のボランティアを受け入れている。 ホームで開催する夏祭りに地域の方々を招待したり、散歩の折に行き交う人達に挨拶する等、地域との交流に努めている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価や外部評価は、自己を振り返る良い機会と捉え、改善すべき点は改善してサービスの質の向上につなげている。 自己評価はユニットごとに全職員で行っている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は利用者や家族、地域包括支援センター職員、地域の有識者、民生委員、事業所関係者を委員として、1回目を6月に開催することになっている。	○	会議を積極的に活用し、サービスの質の向上につなげることを期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市福祉施設協働事業連絡協議会のメンバーとなっており、市民や市職員の施設見学の受け入れをしている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時やイベント参加の折に利用者の暮らしぶりを家族に報告するとともに、来訪できない家族には、ホーム便りや個別の手紙でその都度報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に設置している。 重要事項説明書に苦情等の申立て窓口を明示するとともに、ホーム内に掲示し、家族等が運営に関する考えを表出しやすい環境を整備している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は別ユニットの利用者の情報も共有しており、異動や離職等の折には顔馴染みの職員が支援するなど、利用者のダメージを最小限に抑えるよう配慮している。 家族等には、面会時やお便りで報告している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	救命救急や認知症介護等の研修、市内の福祉施設との相互実習等を行い、職員のスキルアップを図っている。 研修終了後はその資料を添付した報告書を作成するとともに、職員間で情報を共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入し、勉強会等を通して同業者との交流を図るとともに、ネットワークづくりに努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者や家族等に見学してもらい、他の利用者と昼食をともにしたり、日中の生活を体験し、納得したうえでサービスの利用を開始している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者に話しを聞いてもらったり、アドバイスをもらうなどの関係を築いており、人生の先輩として尊重している。 お互いが協働しながら和やかな生活ができるよう場面づくりに努めている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始時に出生場所や職業、家族の状況等を聞き取り、生活歴の把握に努めている。日々の会話や触れ合いの中から利用者一人ひとりの思いや希望を感じ取り、支援につなげている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者からどのような暮らしがしたいかを聞くとともに担当者会議を開き、家族等に同意を得たうえで介護計画を作成している。利用者や家族等から要望がない場合は、普段の表情やしぐさなどから利用者の思いを感じ取り、関係者で話し合っって介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、介護保険更新時や状態の変化がある時など必要に応じ見直している。毎月、計画に照らし合わせ経過記録を作成し、モニタリングシートによって達成状況を確認している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同一法人の医療機関間で医療連携体制を取っている。 2週間に1度通院支援をしているほか、通院できない利用者を対象に2週間に1度訪問診療を受けている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携先の歯科医に定期的に訪問診療を受けている。 提携医療機関以外は家族等の付き添いを原則としているが、利用者が適切な医療を受けられるよう連携を図っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制を取っており、利用者や家族の希望に応じて重度化や終末期の支援をしているが、対応の指針を文書化するまでには至っていない。	○	「重度化、終末期対応指針」を定め、利用者及び家族等に説明したうえで同意を得る等の対応が望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者を一人ひとりの意向にそった自然な形で呼んでいる。 排泄誘導や食べこぼしなどの折には、目立たずさりげない言葉かけをするよう配慮している。 個人ファイル等の書類はロッカーに保管し、取り扱いに留意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者と一緒にお茶を飲みながら話し、その日その時の利用者の気持ちを察しながら支援している。 居室に閉じこもりがち利用者には無理強いないせず、さりげなく室外に誘い出すなど孤立しないよう配慮している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューは設置法人の栄養士がカロリー計算し決めているが、食材を利用者の好みに合わせた調理法に変えたり、弁当にするなどの工夫をして利用者が楽しめるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ユニットごとに入浴の曜日を変えて週2回としているが、希望や必要に応じ他のユニットの浴室をいつでも利用できる体制になっている。 入浴できない利用者にはシャワーや清拭で対応している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理の下準備、配膳や下膳、洗濯物たたみなど利用者ができる範囲で役割をもてるよう支援している。 編み物、折り紙、小物作り、カラオケ等利用者が自由にやりたいことができるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日はホームの周辺を散歩し、気分転換ができるよう支援している。 職員は外出したがる利用者にも声をかけをし、少しでも外気に触れられるよう支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームは頻繁に車が通る道路に面しており、利用者の安全確保のために玄関に鍵をかけている。 庭へは利用者がいつでも自由に出られるようになっているとともに花や野菜づくりを楽しむことができる。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の指導のもと利用者、職員等で避難訓練を行っているが、対応マニュアルの作成、広域避難場所や避難経路の確認をするまでには至っていない。 地域の消防団の協力を得られる体制になっている。	○	防災マニュアルを作成するとともに、広域避難場所や避難経路の確認が望まれる。 避難訓練の際には消防団以外にも地域の方々の協力が得られるよう働きかけることを期待する。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿や高血圧等の持病がある利用者には味付けや盛り付け、量などを調節して対応している。 水分は最低1日に1000mlを摂取できるよう支援している。 個別に見守る必要がある利用者は、細かくチェックし記録して支援している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関周りや共用スペースは、季節の花々や行事の飾り物などを置き、四季を感じられるよう配慮している。 畳敷きの空間を設け、利用者は足を伸ばしたり、寝転んだりしてくつろげるよう配慮している。 職員は利用者一人ひとりの性格やそれぞれの相性を考え、利用者の着座位置等に配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者の馴染みの品を持ち込み、自らが作成したカレンダーや家族が持参した飾り物等を掛けている。 利用者が希望すれば鍵を掛けることができると、利用者の意思を尊重している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。